## 『単位の改善のための取組に関する状況 【2024年度提出分(2023年度実績)】<mark>※非特定事業者用</mark> 株式会社エステム 銘柄コード 法人番号 9180001014155 (Stem Corporation) 【取組の概要:業界の事情等を考慮した取組について(定量指標)】 日本標準産業分類 コード 項目名 エネルギー総使用量 46,162 GJ 1,190 kl 前年度エネルギー 中分類 36 水道業 1,188 kl 総使用量 細分類 非化石エネルギー 3631 下水道処理施設維持管理業 12,557 GJ 324 kl (申請事業) 総使用量 【役職】 知多事業所 総括責任者 調整後温室効果ガス エネルギー管理統括者 2,160 t-CO<sub>2</sub> 【氏名】 片岡 政人 【エネルギーの使用の合理化】 【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】 【取組の概要:業界の事情等を考慮した取組について(定性的事項)】 原単位分母 主たる事業における 種別 合計量 1. エネルギーの使用の合理化に関する事項 エネルギー消費原単位<sup>※注</sup> (1)流入負荷に対し、最適な送風量となるよう運転管理をしている。 主たる事業 (2023年度実績) % t-C02 の構成割合 (2)消費電力の少ない送風機を優先的に使用している。 2019 2020 2021 2022 2023 (3)最適な設備で運用できるよう、設備の修理を計画、実施している(TBM、CBM)。 t-CO2 事業者全体の 年度 年度 年度 年度 年度 (4)機器更新時に、省エネルギーの機器を選定している。 エネルギー消費原単位 対前年度比 t-C02 事業者全体の t-C02 5年度間平均原単位変化(%) ※ 主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業 分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。 2. 非化石エネルギーへの転換に関する事項 (1)下水由来のバイオガスを使用している。 【電気の需要の最適化】 【非化石エネルギーへの転換】 原単位分母 (2023年度割合は、エネルギー総使用量の約12%) 主たる事業における 事業者全体で使用する電気 電気の非化石比率 ①汚泥由来のバイオガスをより多く発生するような設備運用をしている。 電気需要最適化評価原単位 (2023年度実績) 例:汚水由来の有機物をより多く回収し、消化させるような運転管理をする。 目標(2030年度) 30% ②汚泥由来のバイオガスを優先的に使用している。 DR実施日数 2019 2020 2021 2022 2023 (2)中部電力から供給される電気の非化石エネルギー比率の向上を望む。 年度 年度 年度 年度 年度 2022 2023 2019 2020 2021 直近5年度間の実績値 事業者全体の (2023年度割合は、エネルギー総使用量の約15%) 年度 年度 年度 年度 年度 電気需要最適化評価原単位 27% 対前年度比 目安設定業種 事業者全体の 5年度間平均原単位変化 【取組の概要:カーボンニュートラルに向けて】 【ベンチマーク指標の状況(合理化)】 1. 自由記述欄(カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について) 目安(2030年度) ベンチマーク区分 目指すべき水準 kl/t以下 目標(2030年度) ベンチマーク指標の状況 2019 2020 2021 2022 2023 年度 年度 年度 年度 年度 ベンチマーク区分 直近5年度間の実績値 2. 関連リンク 目指すべき水準 kl/t以下 タイトル 目安設定業種 タイトル ) ベンチマーク指標の状況 タイトル ) ベンチマーク区分 目安(2030年度) 目指すべき水準 ベンチマーク指標の状況 目標(2030年度) ベンチマーク区分 2019 2020 2021 2022 年度 年度 年度 年度 年度 (注意事項) 目指すべき水準 直近5年度間の実績値 ・赤枠囲み欄は必須記載です。 ・再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法第37条第1項の規定による、賦課金に係る特例の適用を受ける期間においては、 ベンチマーク指標の状況 情報の公表を継続する必要があります。